

だんだん動物園入場システム テスト設計のご提案

2026/01/24

Team やま

目次

1. チーム紹介
2. コンセプト
3. 目的の明確化と作業方針の策定
4. テスト設計 作業内容の紹介
 - [STEP1] 分析/発散
 - [STEP2] 実施基準の整理
 - [STEP3] 統合/一覧化
5. まとめ

1. チーム紹介

◎ [Teamやま] の構成について

自社でシステム開発を行っている会社にて

[製品の検査 / 品質担保]を行う部門に所属するメンバーから選抜

→ メンバー全員 今回が初参加

◎ 参加の目的

- 普段の業務で行っている作業や成果物が、『一般的なテスト設計スキル』と比べたときにどういった違いがあるのかを理解したい
 - ▶ 本コンテストへの参加を通じて、メンバー全員が新しい知見や観点などの刺激を受け、日常作業にフィードバックできるように取り組んでいます

2. コンセプト

【複数の視点】から漏れなくリスクを洗い出す

メンバーで分担して様々な観点から、想定されるリスクや影響範囲の検討を行うことにより、実施すべきテスト内容を網羅的に洗い出した

別々の切り口からの分析を行うことによって、
様々なケースを想定した抜け漏れの少ないテスト設計を行う

⇒「予期せぬパターン」による障害流出リスクを最小限に抑える

3.目的の明確化と作業方針の策定

◆ 本活動の『目的』と『活動内容』を整理

テスト設計の対象となるシステム	[だんだん動物園]内で運用されている下記システム ①. 園内チケットシステム / ②. Webチケットシステム
本活動の発端となる背景	既に稼働中の前述のシステムに対し、以下の改修が行われることとなった ✓ 「入場ゲート」の増設（2台） <ul style="list-style-type: none">入場ゲート付近の滞留リスク低減が目的 ✓ 「入場ゲートハブ」の新設 <ul style="list-style-type: none">複数ゲートの運用に伴い、 入場券の有効/無効判定を集中管理する「入場ゲートハブ」を新設
重点項目として提示されている点	<ul style="list-style-type: none">システムが長時間稼働することを保証したい時間枠の重複販売が発生しないことを保証したい確実に「密回避」が達成できたことの効果を示したい <small>※既存の仕組みで達成済み</small>
【目的】 テスト設計時に考慮すべき観点	<ul style="list-style-type: none">新規追加の「入場ゲート」周り既存システムと新システムの差分上記「重点項目」の達成「今回の入場ゲートの変更」に加え、「今後の構成等の変更」発生時にも 大きな問題とならないことを確認できるリグレッションテストの実施計画

3.目的の明確化と作業方針の策定

◆ 目的達成のために必要な行動方針

前述の『目的』を達成するための活動に取り組むにあたり、

テスト設計の内容を後工程（実施）まで考えた際に、

より『実現可能な内容』に落とし込むため、下記の「方針」を定めて作業を進めることとした。

【作業方針】	<ul style="list-style-type: none">① 確認すべき観点や動作のパターンを網羅的に洗い出す ★コンセプトを踏襲<ul style="list-style-type: none">➤ まずは、本対応によって発生する影響やリスクとして考えられる内容をすべて書き出していく② 上記の内容に対して、テスト実施の必要を判断できるための優先度を設定する<ul style="list-style-type: none">➤ ①にて網羅的に挙げた全てのパターンをテスト実施するのは、コスト（リソース/期間）の面から非現実的➤ そのため、各実施項目に対する「リスクに対する分析」を行い優先度としてランク付けを行う<ul style="list-style-type: none">➤ これにより、コスト感に応じた実施内容の選定ができる状態にする③ 活動内容や状況を可視化できるようにし、テスト設計内容を集約する<ul style="list-style-type: none">➤ 最終的な「何を / どの優先度で実施するか」を一覧化し、依頼者への[説明/内容合意/報告]の際に活用
--------	---

3. テスト設計 作業内容の紹介

ここまで『作業方針』を考慮した上で、具体的な作業内容の検討を行い、下記のようなステップで作業を行うことで、テスト観点・項目の整理を進めた。

◆ テスト観点の洗い出しの際に行った大まかな流れ



以降のスライドにて、各ステップ内で作成した成果物を参考にしながら説明を行う

分析/発散

4. テスト設計 作業内容の紹介

分析/発散

- 仕様分析
 - 新規要件/既存機能の分析
 - 既存への影響範囲の整理 (リグレッションテスト)

[ISO/IEC 25010 品質特性]に基づく観点整理

ユースケース分析

◆ 仕様分析 – 新規/既存 両方面への影響整理

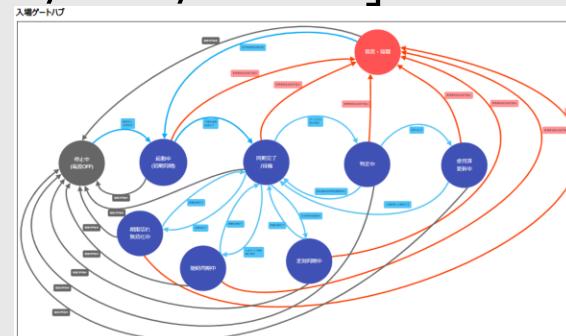
- ✓ 「新規追加要件」と「既存機能から変更点」に関する仕様を、
[テスト依頼書]等のドキュメントを読み込んで整理

No.	分類名	ID	テスト観点
1	仕様分析	2025-FN-001	入場ゲートハブ：正常に起動すること
2	仕様分析	2025-FN-002	入場ゲートハブ：起動後、入場管理から「入場券情報一覧」を取得すること(初回分)
3	仕様分析	2025-FN-003	入場ゲートハブ：「入場券情報一覧」をもとにQRコード有効/無効を判定すること
4	仕様分析	2025-FN-004	入場ゲートハブ：「入場券情報一覧」が下記のタイミングで情報更新されること -入場ゲートハブ起動時 -新しい時間枠の開始時 -いますぐ入場券の購入を契機に更新されたことが通知された時
5	仕様分析	2025-FN-005	入場ゲートハブ：入場券情報一覧が入場管理と同期されること
6	仕様分析	2025-FN-006	入場ゲートハブ：正常に停止(電源OFF)すること
7	仕様分析	2025-FN-007	入場ゲート：正常に起動すること
8	仕様分析	2025-FN-008	入場ゲート：読み取ったQRコードの情報をハブへ送信、判定結果を受信すること

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

- ✓ 成果物2 002 [B-003]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析

- ✓ システムの状態遷移を可視化し、
[起動/通信/障害時]といった様々な状態に対する観点を網羅



《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

- ✓ 成果物2 004 [B-005]状態遷移図

4. テスト設計 作業内容の紹介

分析/発散

仕様分析

- 新規要件/既存機能の分析
- 既存への影響範囲の整理
(リグレッションテスト)

[ISO/IEC 25010 品質特性]に基づく観点整理

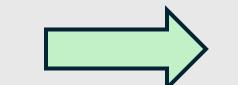
ユースケース分析

◆ 仕様分析 - 既存機能への影響整理

- ✓ **直接的に改修を加えていない既存機能への影響範囲の分析**を行い計画として盛り込む
- 今後の影響確認で網羅すべき『テストケース』を洗い出した上で『**テストスイート**』として項目を作成しておく
- ◆ **今後継続的にシステムに行われる改修の際の影響確認
(=リグレッションテスト) で再利用できる状態を構築**

変更点	影響あり	影響なし
入場制限人数の倍増	入場管理・クラウド2・発券機・Web(クラウド1)・残数インジケータ	入場ゲート・入場ゲートハブ・決済システム
入場ゲート増設	入場ゲートハブ	Web(クラウド1)・クラウド2・発券機・残数インジケータ・決済システム
入場ゲートハブ新設	入場ゲート・入場管理	Web(クラウド1)・クラウド2・発券機・残数インジケータ・決済システム

重要度	発生確率					
変更点	影響					
・3: 機能停止・誤動作・データ不整合につながる	・3: 作業すれば確実に発生/負荷上昇が必ず起きる					
・2: パフォーマンス低下・遅延・境界動作の変化	・2: 条件次第で起きるが十分想定される					
・1: 表示変化・軽微な仕様範囲変更	・1: 特殊条件でのみ発生					
ID	変更点	サブシステム	影響内容	リスク	影響度	発生頻度
2025-RT-01	入場制限人数の倍増	Web(クラウド1)	5-3 上限初期値変更	残数表示誤り	3	3
2025-RT-02	入場制限人数の倍増	入場管理	1-2 減算/加算の上限範囲変更	残数計算不具合	3	2
2025-RT-03	入場制限人数の倍増	入場管理	5-3 上限初期値変更 (取得側)	当日枠生成不一致	3	2
2025-RT-04	入場制限人数の倍増	入場管理	5-3 減算/加算範囲変更 (更新側)	更新誤り/残数不整合	3	2
2025-RT-05	入場制限人数の倍増	入場管理	1-2 上限初期値変更	初期残数不整合	2	3
2025-RT-06	入場制限人数の倍増	入場管理	1-3 上限初期値変更	発券機表示誤り	2	3
2025-RT-07	入場制限人数の倍増	発券機	1-3 上限初期値変更	表示内容誤り	2	3
2025-RT-08	入場制限人数の倍増	残数インジケータ	1-3 上限初期値変更	ランプ色誤表示	2	3
2025-RT-09	入場制限人数の倍増	クラウド2	5-3 初期データ不正	2	2	
2025-RT-10	入場制限人数の倍増	Web(クラウド1)	5-3 減算/加算範囲変更	表示遅延・不整合	2	2
2025-RT-11	入場ゲートの増設	入場ゲートハブ	対象機器増に伴う負荷増大	負荷過多・遅延	3	3
2025-RT-12	入場ゲートハブの新設	入場管理	通信経路変更	配信切替ミス・同期遅延	3	2
2025-RT-13	入場ゲートハブの新設	入場ゲート	通信経路変更	経路切替ミス・通信不整合	2	2



[テストケース]から
[テストスイート]を作成

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

✓ 成果物2 005 [B-006]リグレッションテスト

5. テスト内容(テストスイート)

テスト名	目的	前提条件
テストスイートNo1. 入場制限人数の倍増まわり (入場管理・クラウド2・Web・発券機・インジケータ)		
Web_ 残数表示_ 上限倍増回帰	上限倍増後も、Webの残数表示(○/△/×)が設計通りになることを確認	クラウド2の5-3に新上限値が設定済み/テスト
Web_ 購入可否_ 残数連続回帰	上限倍増後も、Web購入時の残数チェック・エラー表示が従来通り動くことを確認	5-3に新上限値と複数パターンの残数を設定/
入場管理_ 5-3回帰_ 残数更新回帰	入場管理が5-3を正しく取得・更新できることを確認	クラウド2の5-3に新上限値を設定/テスト用の
入場管理_ 1-2当日枠残数回帰	当日3枠(現在枠/次枠/次々枠)の1-2枚数が、購入・取消に対して正しく処理されることを確認	テスト用に現在枠/次枠/次々枠を設定/発券
発券機_ 残数表示_ 販売停止回帰	上限倍増後も発券機の残数表示と販売停止判定が設計通りであることを確認	入場管理から発券機へ1-3が配信されるテスト用
残数インジケータ_ 表示回帰	上限倍増後も、残数インジケータの色が残数に連動して正しく変化することを確認	入場管理からインジケータへ残数情報が配信され
テストスイートNo2. 入場ゲート増設まわり (入場ゲートハブ)		
ハブ_ 複数ゲート配信回帰	ゲート台数増加後も、ハブが全ゲートへ1-4を正しく配信できることを確認	新規・既存を含む複数ゲートがハブへ接続済み、
ハブ_ 負荷試験_ ゲート増設時	ゲート増設後、ハブの負荷 (CPU/メモリ/応答時間) が許容範囲内か確認	性能監視が可能なテスト環境/複数ゲートから
テストスイートNo3. 入場ゲートハブ新設まわり (経路切替)		
ゲート_ 新経路_ E2E入場回帰	通信経路が「入場管理⇒ゲート」から「入場管理⇒ハブ⇒ゲート」に変わった後も、従来通り動作することを確認	ハブ経由構成でゲート・入場管理・クラウド2が接
ゲート_ 経路切替_ 異常系回帰	ハブ経由構成で、ハブ・ネットワーク異常時のゲート動作が設計通りであることを確認	ハブとのネットワーク切断/ハブプロセス停止をシ
入場管理_ ハブ経由_ 1-4配信回帰	入場管理がハブ向けに1-4を配信する経路へ切り替わった後も、1-4内容が従来通りであることを確認	ハブ経由構成で、入場管理から1-4が配信され
テストスイートNo4. 変更点以外の影響確認_ 起動		
入場管理サーバ_ 起動テスト	起動後、データ取得と通信が正常であり、ログ・監視UIも正常であることを確認する	入場管理サーバ停止状態/ネットワーク接続済み
入場ゲートハブ_ 起動テスト	起動後、入場管理サーバ・入場ゲートとの通信および発券機情報の表示が正常であることを確認する	入場管理サーバ起動済み/ゲート起動済み/ハブ

4. テスト設計 作業内容の紹介

分析/発散

仕様分析

- 新規要件/既存機能の分析
- 既存への影響範囲の分析
(リグレッションテスト)

[ISO/IEC 25010 品質特性]に基づく観点整理

ユースケース分析

◆ [ISO/IEC 25010 品質特性]に基づく観点整理

- ✓ ドキュメント内から品質に関する要求や制約を整理し、
『品質特性』に直結する要件を抜粋して整理

No.	分類名	ID	テクノロジ	リスク (影響度)	リスク (発生頻度)	XE
1	品質特性	2025-QC-001	機能完全性: 発券機・Web購入のチケットで入場できること	3	3 n	3 機能要件
2	品質特性	2025-QC-002	機能完全性: 接触人間同時入場できること	3	3 n	
3	品質特性	2025-QC-003	機能正確性: 有効QR → 離席が正しく動作すること	3	3 n	
4	品質特性	2025-QC-004	機能正確性: 使用済無効QR → 画面表示が正しく動作すること	3	3 n	
5	品質特性	2025-QC-005	時間効率性: 1人で入場時の応答時間が1秒以内であること	2	3 n	3 非機能要件
6	品質特性	2025-QC-006	時間効率性: 接触人間同時入場時の応答時間が全員1秒以内であること	2	3 n	
7	品質特性	2025-QC-007	時間効率性: 60人連続での入場処理を問題なくさけること	2	3 n	3 非機能要件 高負荷テストを実施
8	品質特性	2025-QC-008	資源効率性: 同時入場処理や在庫更新時に処理落ち/遅延がないこと	2	2 n	
9	品質特性	2025-QC-009	容量: 30分間で60人の入場処理を問題なくさけること	1	1 n	
10	品質特性	2025-QC-010	容量: 1日720人の入場処理を問題なくさけること	1	1 n	
11	品質特性	2025-QC-011	容量: 30分間で1,000人の入場処理を問題なくさけること	1	1 n	
12	品質特性	2025-QC-012	容量: 1日12,000人の入場処理を問題なくさけること	1	1 n	
13	品質特性	2025-QC-013	相互通用性: 「入場ゲート」「入場ゲートハイ」「入場ゲートハイ⇒入場管理」で接続可能で問題ないこと	3	3 n	3 非機能要件
14	品質特性	2025-QC-014	ユーザーインターフェース: ユーザー表示・停止処理が従来通りであること	3	3 n	
15	品質特性	2025-QC-015	成熟度: 長時間稼働 (10~18時間) で障害・不具合が発生しないこと	3	3 n	
16	品質特性	2025-QC-016	リカバリー: リカバリー手順を実施	2	1 n	3 非機能要件
17	品質特性	2025-QC-017	可視性: ハードウェア/ソフトウェア/データ/動作/状態/リカバリー	1	1 n	3 非機能要件

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

- ✓ 成果物2_006 [B-007]品質特性による分析

・ISO X 25000に基づく品質特性の観点から必要なテストを分析						
No.	品質特性	サブ特性	リカバリー性	テスト名否 (要・不要)	概要-考査内容	テスト観点
1	機能適合性	機能完全性	利用者が求めたすべての機能を満足する機能は「購入したチケットで入場ができる」として「待ち時間がない」を意味	要	今日のテスト目標に対する利用者が求めた機能は「購入したチケットで入場ができる」として「待ち時間がない」を意味する機能を実現する	購入したチケットで入場できること → 一般券種・Web購入チケットで入場できる事 → 待ち時間がないこと
2	機能正確性	値り込まれた入力と出力に正確に対応する	結果を出力する度	要	この品質特性に対する実現度は高い → この品質特性を実現できない入場ができないため影響度は高い → 待ち時間がないこと	待ち時間がないこと → 一般券種・Web購入チケットで入場できる事 → 待ち時間がないこと
3	機能効率性	機能効率性	機能が、利用者の目的達成に必要な時間で動作する	不要	今日のテスト目標に対する利用者が求めた機能は「購入したチケットで入場ができる」として「待ち時間がない」を意味する機能を実現する	待ち時間がないこと → 一般券種・Web購入チケットで入場できる事 → 待ち時間がないこと
4	性能効率性	時間効率性	接続時間と待機時間の合計が短いこと	要	今日のテスト目標に対する利用者が求めた機能は「購入したチケットで入場ができる」として「待ち時間がない」を意味する機能を実現する	待ち時間がないこと → 一般券種・Web購入チケットで入場できる事 → 待ち時間がないこと
5	直感効率性	直感効率性	直感的で操作が簡単なこと	要	今日のテスト目標に対する利用者が求めた機能は「購入したチケットで入場ができる」として「待ち時間がない」を意味する機能を実現する	待ち時間がないこと → 一般券種・Web購入チケットで入場できる事 → 待ち時間がないこと

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

- ✓ 成果物2_007 [B-008]品質特性一覧

- ✓ 特殊なテスト実施が必要と判断した観点に対するテスト計画を想定

▼作成したテスト計画書

- 高負荷テスト
- ロングランテスト

※ 右には計画内の[想定数]部分を抜粋

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

- ✓ 成果物2_008 [B-009]高負荷テスト計画書
✓ 成果物2_009 [B-010]ロングランテスト計画書

■最大負荷量の試算 (リクエスト数、想定人数)

各要素に対して、本番運用時に想定される最大のリクエスト数 (利用想定人数) を算出。

提供資料内には明示的な利用者数等の情報は指定が無かつたため、「一般的な動物園」を想定して試算。

システム名	確認箇所	最大数想定 (30分あたり)	備考欄
園内チケットシステム	入場ゲート	60 人	システム上の制限人数
	入場ゲートハイ	60 人	システム上の制限人数
	入場管理	60 人	システム上の制限人数
	発券機	15 人	「一般的な動物園」を想定して試算
	残数表示インジケータ	60 人	システム上の制限人数
webチケットシステム	メールサーバ	4 件	「一般的な動物園」を想定して試算
	Webサーバ	45 req	「一般的な動物園」を想定して試算
	予約管理DBサーバ	60 req	[発券機]+[webサーバ]で算出
	会員情報管理DBサーバ	120 req	[入場管理]+[予約管理DBサーバ]で算出

■計測時の条件 (時間、想定数)

各要素に対して、本番運用時に想定される最大稼働時間と、その際のアクセス数の以下のように設定する。

提供資料内には明示的な利用者数等の情報は指定が無かつたため、「一般的な動物園」を想定して試算。

システム名	確認箇所	稼働時間	計測時の設定	備考
園内チケットシステム	入場ゲート	8 h	30 人	「一般的な動物園」での[混み合具:通常時]を想定して人数を算出
	入場ゲートハイ			
	入場管理			
	発券機			
	残数表示インジケータ			
webチケットシステム	メールサーバ	1か月 (=24h*30日)	4 件	同上
	Webサーバ		45 req	
	会員情報管理DBサーバ		60 req	
	予約管理DBサーバ		120 req	

4. テスト設計 作業内容の紹介

分析/発散

- 仕様分析
 - 新規要件/既存機能の分析
 - 既存への影響範囲の分析
(リグレッションテスト)

[ISO/IEC 25010 品質特性]に基づく観点整理

ユースケース分析

◆ ユースケース分析

- ✓ [チケット購入～発券～入場]までの一連の流れを対象に、ユースケースを基にしたシナリオテストを設計(正常系/異常系を含む)

◆ユースケース関連資料 資料間の関係性

- ## [B-012]ユースケース一覧表

- [B-013]ユースケース記述書

- ### [B-014] テスト条件一覧

- ## └ [B-015] テストケース一覧

- ## — [B-016]ユースケースカバレッジマトリクス

文書ID: B-013 文書名: ユーザー登録説明書	UC-01 Webチケットシステムで会員登録する
ユースケースID ユースケース名	
目的/成果 *このユースケースを実行した結果、何が達成されるか	Webチケットシステムの会員アカウントを新規に作成し、有効な状態で利用開始できる
主アクター	利用者 (非会員)
事前条件 *ユースケース開始前に満たしておるべき状態や条件	利用者がWebチケットシステムにアクセスできること
トドーカー (開始条件) *ユースケースが開始されるきっかけ	利用者が新規会員登録リンクを押下する
基本フロー	BF-001
*標準的: 正常な操作の一連の手順	Webチケットシステムのナビゲーション画面から「新規登録画面を表示する」 BF-002 必要項目を記入する BF-003 「登録する」を押下する

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋
✓ 成果物2 010 「B-011」ユースケースによるテスト分析

..... 等

上記のように「ユースケース」という観点を起点に、
実際の運用時に発生しうるシナリオを網羅的に検討し、
テストケースに落とし込みを行った

実施基準の整理

4. テスト設計 作業内容の紹介

実施基準の整理

リスク/優先度の
基準定義

重点項目の抽出

◆ リスク/優先度の基準定義

- ✓ 「分析/発散」工程の中で抽出したテスト観点に対して、テスト実施を行う際の優先度の重みづけを行うための基準を定義

- **リスク評価**：下記の二軸でレベル(高/中/低)を設定
 - [影響度(Impact)]、[発生頻度(Likelihood)]

影響度 (Impact) の定義^④

障害が発生した場合に、利用者や業務、システム全体に与える影響の大きさを評価

定義名 ^④	レベル ^④	内容 ^④
高 ^④	3 ^④	システム全体が停止/重要業務が完全に停止 ^④
中 ^④	2 ^④	一部機能が利用不可/業務に迂回策がある ^④
低 ^④	1 ^④	見た目の不具合などの軽微な誤動作 ^④

発生頻度 (Likelihood) の定義^④

障害が入り込む・発生する可能性の高さを評価（不具合が生じやすいか）

定義名 ^④	レベル ^④	内容 ^④
高 ^④	3 ^④	ほぼ確実に発生しそう ^④
中 ^④	2 ^④	条件次第で発生する可能性がある ^④
低 ^④	1 ^④	ほとんど発生しなそう ^④

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

✓ 成果物1 「B-001】テスト設計書 » 第4章

- **優先度判定**：上記リスク値を基に算出

- リスク値 = 影響度 (1 ~ 3) × 発生頻度 (1 ~ 3)
- リスク値の点数に応じて、優先的に実施すべきテスト観点かを[高/中/低]で判定を行う

4. テスト設計 作業内容の紹介

実施基準の整理

リスク/優先度の
基準定義

重点項目の抽出

◆ 重点項目の抽出

- ✓ 本件の[テスト依頼書]にて、
下記の観点は**重点項目として明記**されている
 - だんだん動物園入場システムの正常稼働のためテスト重点項目として以下を定めた
 - システムが長時間稼働することを保証したい
 - 一度に制限人数以上の来場者が来てしまう事態は回避したいために時間枠の重複販売が発生しないことを保証したい
 - 今回の施策により、確実に「密回避」が達成できたことの効果を示したい

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

✓ [01 だんだん動物園入場システムテスト依頼書 20250507.pdf](#)

- ✓ 前述の「リスク/優先度」は、
一般的な考え方を元にした重み付けを行っているため、
必ずしも上記の重点項目がテスト実施されるとは限らない
⇒ **影響度の結果に問わらず、テストレベルを上げて対応**を行う

統合/一覧化

4. テスト設計 作業内容の紹介

統合/一覧化

- 『テスト観点一覧』へ集約
- 分類項目を一覧化
- リスク/優先度の設定

モニタリング 計画の設定

◆ 『テスト観点一覧』へ集約

- ✓ 最終的に「分類」「リスク優先度の判定」「テストレベルの定義」「重点項目」を取り纏め、【B-002】テスト観点一覧を作成

【本資料の狙い】

- ・ 今回のテスト設計時の成果物の『入口』となる役割を目指し、「テスト想定時の考え方」「洗い出したテスト観点」「各観点についての詳細資料への誘導」を一覧としてまとめた資料
→以降の活動にて[対応説明/観点管理/進捗確認]などに活用

1. 「テスト観点一覧」とは？

本資料は、だんだん動物園入場システムにおいて「今回どのようなテストを実施するのか」を一つにまとめた、テスト設計全体の「入口」となる資料となる。

今回の改修内容に対して必要となるテストを多角的に抽出するため、仕様分析・状態遷移・品質特性・ユースケースの4つの視点からテスト観点を整理・統合した。

本資料を参照することで、下記の点を把握することを目的としている。

- ・ テストの全体像の把握
- ・ どの観点が重要であるか
- ・ 各観点がどの関連資料に基づいているか

以降の詳細資料（仕様分析、品質特性、ユースケース等）を確認いただく前に、まず本一覧を参照ください。本資料を起点とすることで、全体の流れや各資料の関連性をスムーズに把握できる。

2. 記載している内容の「概要」

本テスト観点一覧では、今回の改修に対して必要となるテストを多面的に抽出するため、以下の[4つ]の分析視点を統合している。

【1. 仕様分析】

要求仕様書・画面仕様書・データ連携仕様書などを精査し、機能単位でどのように動作することを求められているのかを整理した観点。また、重点項目となっている「リグレッシュントレード」についても、本分析の一環として集約してまとめている。

【2. 状態遷移】

入場ゲート、入場ゲートハブ、入場管理など、システム内部の状態変化に着目して導いた観点。

《イメージ元 資料》下記資料より抜粋

✓ 成果物2 001 [B-002] テスト観点一覧

No.	分類	観点	ID	テスト観点	リスク影響度	リスク発生頻度	リスク値	優先度	重点項目	テストレベル(A/B/C)	関連資料
1	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-001	入場ゲートハブ：正常に起動すること	3	2	6	中		B	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
2	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-002	入場ゲートハブ：起動後、入場管理から「入場券情報一覧」を取得すること(初回)	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
3	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-003	入場ゲートハブ：「入場券情報一覧」をもとにQRコード有効/無効を判定すること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
4	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-004	入場ゲートハブ：「入場券情報一覧」が下記のタイミングで情報更新されること ・新規登録時 ・新規登録後 ・新規登録後 ・新規登録後	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
5	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-005	入場ゲートハブ：入場券情報一覧が入場管理と同期されること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
6	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-006	入場ゲートハブ：正常に停止(電源OFF)すること	3	2	6	中		B	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
7	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-007	入場ゲート：正常に起動すること	3	2	6	中		B	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
8	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-008	入場ゲート：読み取ったQRコードの情報をハブへ送信、判定結果を受信すること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
9	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-009	入場ゲート：判定結果に応じてドア(ゲート、LED、ブザー)が制御されること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
10	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-010	入場ゲート：正常に停止(電源OFF)すること	3	2	6	中		B	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
11	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-011	入場管理：正常に起動すること	3	2	6	中		B	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
12	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-012	入場管理：起動後、時間毎別複数観点を更新すること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
13	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-013	入場ゲート：故障発生または障害発生時、障害発生を通知すること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析
14	仕様分析	機能テスト観点	2025-FN-014	入場管理：「支払いへすすむ」押下時、入場ゲートハブに「入場券情報一覧」更新を通知すること	3	3	9	高		A	[B-002]既存仕様と新規追加仕様、変更点の記載によるテスト分析 [B-003]仕様分析

4. テスト設計 作業内容の紹介

統合/一覧化

- 『テスト観点一覧』へ集約
- 分類項目を一覧化
- リスク/優先度の設定

モニタリング 計画の設定

◆モニタリング 計画の設定

- ✓ ここまでに行ってきたテスト設計・計画の内容は、
テスト実施期間中も**継続的にレビューのタイミング**を設けて
都度**リスクに対する評価**を行っていくものとする
 - 顕在化していないリスクに対して、
事前に発生時の対応方針を定めて管理しておく
 - ✓ テスト実施前に、本システムのテスト品質として
最低限達成しておくべき「合格基準」を設定し、合否の指標とする
 - テスト計画時点で関係者と合格基準の認識を
共有しておくことで、本活動のゴールを明確にする
 1. 優先度の高いリスク項目が未対応で残っていない
 2. 主要 SLO (Service Level Objective) の達成
 3. 重要度の高い動作に対する
リグレッションテストの実行と成功保証
- ⇒ **『リスク管理』『合格基準』を計画内で明確にしておくことで、
製品の品質担保を達成する**

5. まとめ

本活動では『目的の整理→作業方針の設定→各成果物の作成』という流れでテスト設計を進め、最終的な各成果物の作成を行った。

最終的な成果物を振り返ると…

- **反省点**としては、「普段の業務での知見」が良くも悪くも成果物に影響を与えており、今回の活動を通じて**「新規性/独自性」のある提案とは言い難い内容**となっている
➤ 目的を達成するために手堅い方法・進め方を選択して進めたが、もし依頼者がより強く新規性を求めていた場合に課題が残る内容だと感じている
- 一方で、ここまでに作成した成果物に沿ったテスト計画を実践することにより、**[だんだん動物園-入場システム]の改修に対する品質担保は達成可能**と考える
- また、仮に本活動後に**何らかの計画変動（要件変更 / テスト期間短縮 等）が発生した場合**でも、**今回の成果物をベースに柔軟に対応**することが可能と想定している

ご清聴ありがとうございました

Team やま